

◎ 美術館情報

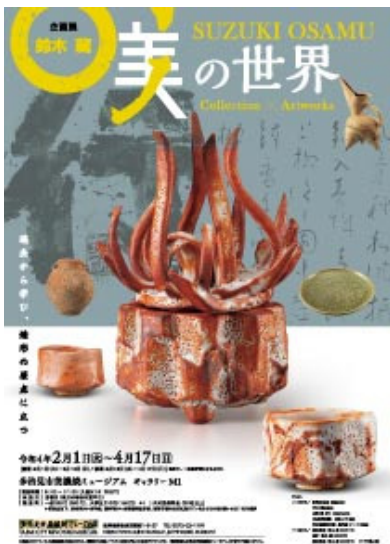
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】(https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/5600)

2022年2月1日(火)～4月17日(日) ※会期中一部入替あり

企画展：「鈴木藏 美の世界」



鈴木藏(すずきおさむ)は岐阜県多治見市を拠点に制作し、重要無形文化財「志野」の技術保持者(通称 人間国宝)に認定された、現代の「志野」を代表する作家のひとりです。鈴木は岐阜県土岐市に生まれ、釉薬技師だった父の下で製陶や釉薬の技術を学びます。20代より創作の道に入り、郷里のやきものである「志野」に取り組むようになります。しかしそれは、単なる桃山陶の技術的な再現だけではありませんでした。自らの豊かな創造性と、1960年代前半にはまだ導入されたばかりのガス窯という現代の技術で「志野」に挑み、数々の陶芸展で賞を重ね評価を高めました。1994年には重要無形文化財「志野」の技術保持者に認定されています。鈴木は作品について「古いものを見て、新しいものへ」と語っています。この言葉からは鈴木が制作において、古典から学び、現代に生きる作家として何ができるのかを模索する姿勢がうかがえます。鈴木が普段から手元に置き、制作のインスピレーションとなるコレ

クションの中には、江戸時代の僧侶良寛の書や洋画家須田剋太の書、中国北魏時代の武人俑、古九谷の大鉢などがあります。多様なコレクションからは一貫した作品の持つ力強さと、鈴木の古典への敬愛を垣間見ることができます。本展では、鈴木が蒐集したコレクションの中から書軸、陶磁器に加え、最新作をあわせて展示し、60年におよぶ制作活動の源流を探ります。

2. 日本民藝館【東京・目黒区】(<https://mingeikan.or.jp/exhibition/special/?lang=ja>)

2022年1月10日(月・祝)～3月20日(日)

企画展：美の標準—柳宗悦の眼による創作

柳宗悦が蒐めた当館所蔵品は、時代や産地、用途などが異なりながら同一の美しさで通底しています。柳はその美を「不二美」「美醜なき美」などと呼び、「美の標準」として広く真価を問いました。本展では同じ美の源泉から多種多様な姿で顕(あらわ)れた「美の標準」を展覧します。それらは初期の茶人達が見立てた井戸茶碗と同様、柳の眼による創作といい得るでしょう。



美の標準

—柳宗悦の眼による創作— 2022年1月10日(祝)～3月20日(日) 日本民藝館

3. 戸栗美術館【東京・渋谷区】(<http://www.toguri-museum.or.jp/tenrankai/index.php>)

2022年1月10日(月・祝)～3月21日(月・祝) ※1/26～2/1 臨時休館

企画展：古伊万里幻獣大全展

2022年は寅年にあたります。本展では、江戸時代に魔除けや強さの象徴として親しまれた虎を中心に、瑞兆として尊ばれた龍や鳳凰、麒麟などの幻獣、物語に登場する動物に注目して古伊万里をご紹介します。

